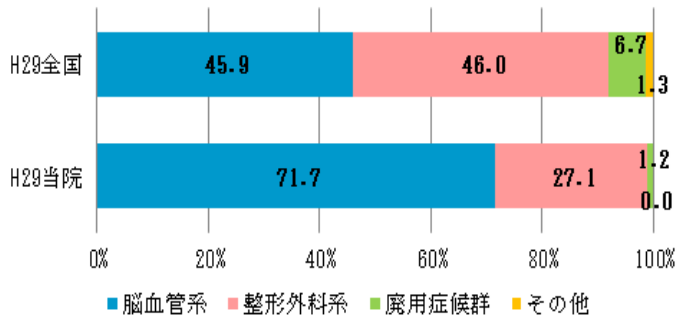
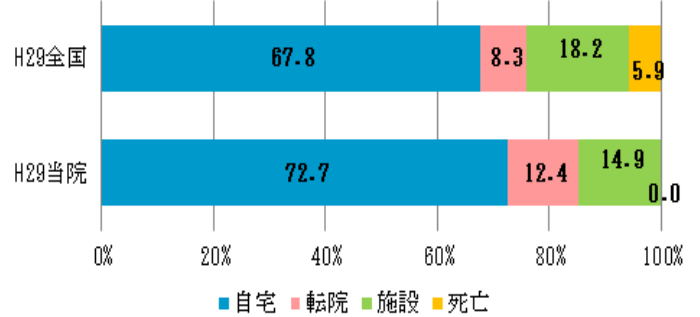


# 【平成29年度】回復期リハビリテーション病棟に関する実績と全国比較

原因疾患割合

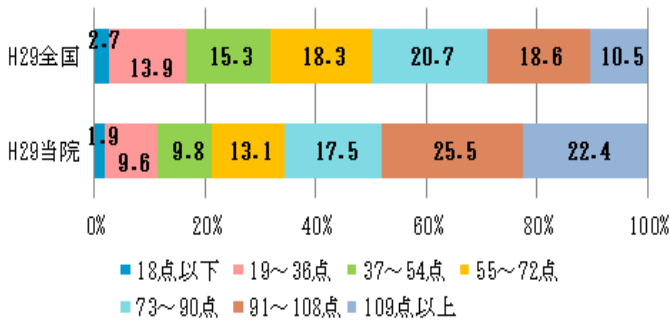


退院経路

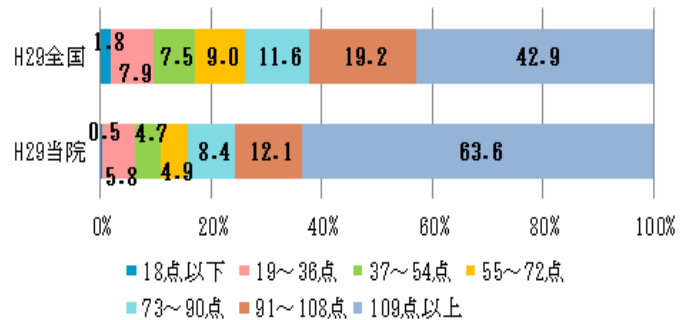


F I M (機能的自立度評価)

入院時



退院時



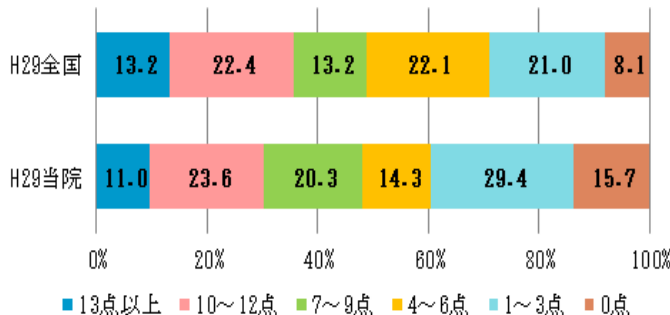
機能的自立度評価 (F I M ; Functional Independence Measure) とは

この評価は、主に介護量を測定するもので食事や整容などの「運動ADL」13項目と、社会的交流や記憶などの「認知ADL」5項目を、介護量に応じて7段階、126点満点で評価します。米国での研究において信頼性と妥当性が検証されており、我が国でも医療や介護の分野などで幅広く活用されています。

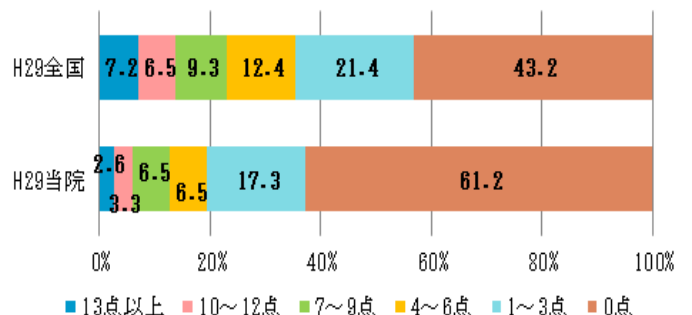
\*ADL：日常生活動作/食事・更衣・移動・排泄・整容・入浴など生活を営む上で不可欠な基本的行動のこと。

日常生活機能評価

入院時



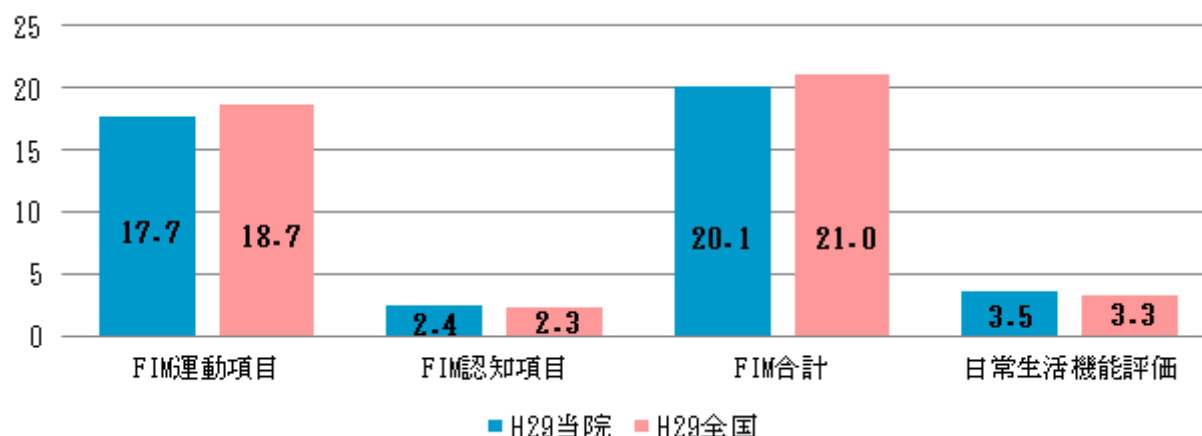
退院時



日常生活機能評価とは

この評価方法は、入院患者の日常生活自立度を測定するもので、起き上がりや移乗・食事摂取などの13項目を「できる」・「できない」・「一部介助があればできる」などの状況で評価し点数をつけます。合計点数の最大値は19点で、点数が低いほうが「自立度が高い」と評価されます。

## ADL（日常生活動作）利得の平均値

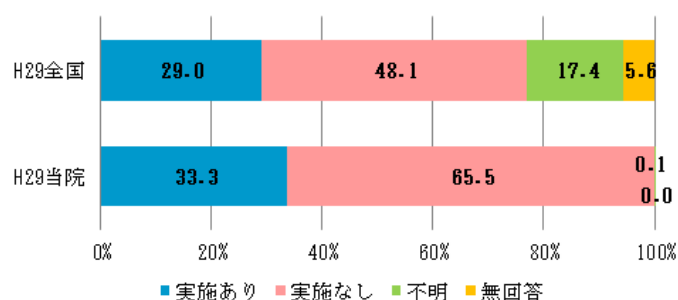


- ◆ 自宅復帰の割合は72.7%と全国平均よりも高い値でした。FIM利得は全国平均よりもわずかに低い値となりましたが、日常生活機能評価の利得では全国平均よりも高い結果となりました。
- ◆ 今後も専門職協働によるリハビリテーション・ケアを充実させ、利用者（患者・家族）から当院を選んで良かったと思って頂けるよう、取り組んでいきます。

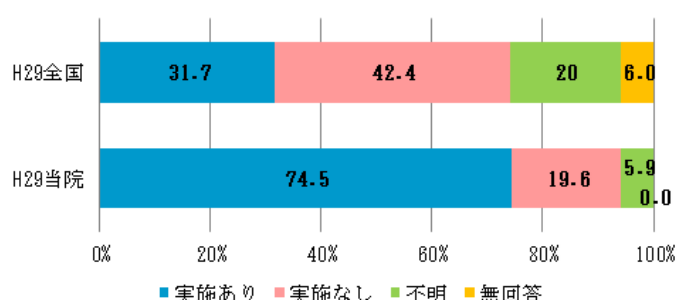
## 退院後のリハビリテーション継続状況

自宅、居住系施設、介護老人福祉施設へ退院された方の、退院後のリハビリテーション実施状況（外来リハビリテーション・通所リハビリテーション等）を下記に記載しています。

### 全患者



### 退院時FIM運動項目21～75点の方



- ◆ 回復期リハビリテーション病棟退院後の、円滑な通所リハビリテーション等への移行が、平成30年度診療報酬改定等にて課題として挙げられています。
- ◆ 当院では、退院後も少しでも体の動きが良くなるように、また、体力や生活レベルが維持できるように、必要な方に対して、外来リハビリテーションや通所リハビリテーションを案内しています。
- ◆ 特に退院後もリハビリテーションが必要とされる、退院時FIM運動項目21～75点の方に対しては、当法人の通所リハビリテーション施設等を積極的に活用し、よりよい在宅生活が送れるように支援しています。